

金融の規制・監督を巡る FRB 内の意見の相違

目次

I. はじめに

II. バー副議長の講演：“Risks and Challenges for Bank Regulation and Supervision”

1. バー副議長の講演の構成
2. 金融危機後の改革の維持と最終化～バーゼルⅢ、流動性リスク、長期債務要件
3. ストレステストの信頼性維持、信頼できて統合的な監督の維持
4. 責任あるイノベーション、サイバー・サードパーティーリスク対応
5. ノンバンク部門のリスク、気候リスク
6. 結論

III. ボウマン理事の講演の概要：“Bank Regulation in 2025 and Beyond”

1. 銀行規制・監督のテ일러化 (tailoring)
2. 問題に基づく解決
3. 米国債市場の機能
4. ストレステスト
5. 詐欺
6. イノベーションの必須条件

IV. 結びに代えて

要旨

本稿では金融規制・監督を巡る FRB 内の意見の相違を紹介する。バー副議長（2月末に副議長を退任）は最近の講演で、①金融危機後の改革の維持と最終化、②ストレステストの信頼性維持、③信頼できて統合的な監督の維持、④責任あるイノベーションの奨励、⑤サイバー及びサードパーティーリスクへの対応、⑥ノンバンク部門のリスク、⑦気候リスク、の7項目を取り上げ、それぞれの課題と注意すべき点を論じた。

一方、ボウマン理事は、①銀行監督のテ일러化、②問題に基づく解決、③米国債市場の機能、④ストレステスト、⑤詐欺、⑥イノベーションの必須条件、を講演で取り上げ、規制の見直しの検討が必要だとしている。

2025年3月4日

特任リサーチ・フェロー佐志田晶夫
(公益財団法人日本証券経済研究所)

金融の規制・監督を巡る FRB 内の意見の相違

公益財団法人日本証券経済研究所
特任リサーチ・フェロー佐志田晶夫

I. はじめに

FRB のバー副議長（監督担当、2 月末に副議長職からは退任）は、2 月 20 日に行った“Risks and Challenges for Bank Regulation and Supervision⁽¹⁾”と題した講演で、バーゼルⅢ実施やストレステストの見直しなどで規制が緩和されかねないことへの懸念を表明した。講演の概要を紹介したい。なお、FRB のボウマン理事も 2 月 5 日に“Bank Regulation in 2025 and Beyond⁽²⁾”と題した講演を行っているが、ボウマン理事は過度な規制緩和、監督の見直しが必要だと述べ、バー副議長とはかなり見解が異なる。今後の米国の規制・監督を考えるには、FRB 理事会内のこうした相違の認識が重要であり、併せて紹介する。

II. バー副議長の講演：“Risks and Challenges for Bank Regulation and Supervision”

1. バー副議長の講演の構成

講演の初めでバー副議長は、銀行が経済に果たす役割の重要性と銀行破綻のコストが完全には内部化されないことから、銀行が過度なリスクをとらないように銀行の規制・監督をする必要があると指摘した。また、金融の変化と共にリスクも変化し、当局者は全ての答えを持ってはいないし事態の悪化を完全に予測できるわけでもない。2023 年には歴史上二番目に大きい銀行破綻が起きて異例な対応が必要になったとしている。

副議長職退任については“理事の役割の方がより効果的に米国国民のために働けると判断した。私の地位に関する論争のリスクが我々の重要な任務から注意を逸らせかねない。連邦準備の独立性は法定の使命を果たし米国の公衆に貢献する我々の能力に極めて重要で、我々の使命は、論争で米国国民のため働くことから逸れるには重要過ぎる”と述べている。

バー副議長は、①金融危機後の改革の維持と最終化、②ストレステストの信頼性維持、③信頼できて統合的な監督の維持、④責任あるイノベーションの奨励、⑤サイバー及びサードパーティーリスクへの対応、⑥ノンバンク部門のリスク、⑦気候リスク、の 7 項目のリスクを取り上げ、それぞれの課題と注意すべき点を論じている。順に見ていきたい。

2. 金融危機後の改革の維持と最終化～バーゼルⅢ、流動性リスク、長期債務要件

金融規制を押し戻そうという動きは常にあり、金融危機後の規制改革を最終化し変化する脅威に対応しようとする中でもそれが感じられた。効率性を高めるのは支持するが、損失を吸収しストレス時に銀行が業務を続けるには資本が極めて重要であり、所用資本は銀行

1 Michael S. Barr : “Risks and Challenges for Bank Regulation and Supervision”, February 20, 2025

2 Michelle W. Bowman : “Bank Regulation in 2025 and Beyond”, February 05, 2025.

が取るリスクに沿うべきだ。また、バーゼルⅢの最終化は多くの改善が含まれている。米国以外の主要法域は国際的に活動する銀行に適用する規則を最終化している。FRBはバーゼルⅢの市中協議⁽³⁾への幅広いコメントを踏まえ、得失をよりバランスさせる重要な変更を行った。米国がバーゼルのような国際フォーラムで指導性を発揮しそれをやり遂げれば、他の法域も支持する基準の設定ができる。国際的な基準の導入で米銀は公平な条件で競争でき、システムはより安全になる。我々が誓約を守らなければ他の法域で公平性への懸念が高まり、国際的な「底辺への競争」が懸念される。これは我々を傷つけ米銀の競争力を低下させる。また、他の法域は海外で活動する米銀に彼らの基準を強制するだろう。

2023年の銀行ストレスでは⁽⁴⁾預金取付けと銀行の破綻が以前より急速に起こった。過去2年間にFRBは銀行が割引窓口から借り入れる能力を改善し、借入に提供する担保は金融システム全体で1兆ドル増え、割引窓口の機能も改善させた。必要な作業は残り、最大手銀行でも割引窓口利用に備える最低水準が設定されていない。また、ある一群の銀行の脆弱性が金融システムに伝染して主要な安定へのリスクになりかねない。今後の重要なステップの1つは大手金融機関の資本要件に売却可能証券の未実現損失を反映させることである。

証券の資金化の想定を現実的にし、預金流出と流動性要件を観察されたストレス行動に合わせるべきだ。預金保険対象外の富裕層やベンチャーキャピタル企業は洗練されたカウンターパーティのように行動していた。預金流出リスクの測定ミスは、ストレス期間に対応する十分な流動性がない可能性を意味する。加えて、全ての銀行の秩序だった破綻処理を確実にする必要がある。G-SIB以外の全大手銀行にも一定の長期債務の発行を求めるのが一つの方法であり、これは銀行の資金調達を心配する預金者を安心させて破綻処理を支援しただろう。私は市中協議を踏まえて修正した長期債務要件の最終化を支持する。

3. ストレステストの信頼性維持、信頼できて整合的な監督の維持

我々は年次ストレステストで困難な環境に直面している。FRBは12月に変化する法的環境を踏まえ、資本のボラティリティを減らし透明性を高めるようにストレステストを大きく変更すると表明した⁽⁵⁾⁽⁶⁾。だが、透明性の向上は必要だが、ストレステストの完全な開示には反対である。第一に、所用資本を減らすリスクがある。銀行はFedのストレステ

3 FRB: "Agencies request comment on proposed rules to strengthen capital requirements for large banks", Joint Press Release July 27, 2023

4 2023年のSVBなどの破綻についてバー副議長は、FRBの規制・監督の問題点について報告書をまとめた"Review of the Federal Reserve's Supervision and Regulation of Silicon Valley Bank" April 28, 2023。なお、ボウマン理事は、これは一人のメンバーの報告書であり、第三者による検証が望ましいとしている。2023年5月12日の講演を参照

5 FRB: "Due to evolving legal landscape & changes in the framework of administrative law, Federal Reserve Board will soon seek public comment on significant changes to improve transparency of bank stress tests & reduce volatility of resulting capital requirements", December 23, 2024を参照。なお、法的環境の変化としては、2024年6月の最高裁によるシェブロン法理の否定（行政当局による法令の解釈と規則制定の制限）がある。

6 2月18日付けの大統領令で独立機関による規制への審査が導入された。FTC、SECなどが主な対象のようだが、FRBの金融機関に対する監督・規制（金融政策以外）も対象に含むとされている。

トモデルが所用資本を高めると主張し、モデルがリスクを過小評価している部分は強調しないだろう。第二に透明性の向上で、銀行はモデルの過小評価に基づき実際はリスクを大きく減らさずにバランスシートを調整しストレステストの結果を最適化できるだろう。こうした駆け引きはリスク管理や経済によくはない結果になる。

第三に、銀行は他のリスクを増やすように行動を変えるだろう。規制当局のモデルとシナリオの完全な透明性は、銀行が自己のリスク管理に投資する意欲を損ないかねず、相対的にテストでリスクの扱いが軽い分野への集中を促しかねない。第四に、おそらく最大のリスクだが、モデル更新のため継続的に規則制定プロセスを通知しコメントすることの難しさから、ストレステストのダイナミズムと正確性が弱まるだろう。2年前のイベントが示すように、金融システムのどこにリスクが生じるかを予測するのは困難である。信頼できるストレステストを維持するには、資源とコミットメントが必要である。

我々が実施した努力の一つとして探索的なストレスシナリオの開始がある。探索的なシナリオは資本要件の設定には用いないが、Fed が銀行のリスクをより理解するのに役立つ。また、追加的な予防処置として FRB は、国際貸出監督法の下で、監督上の判断によって個々の銀行の資本要件の設定で裁量性を持つべきである。世界中の法域がバーゼル第 2 の柱アプローチによって同様なプロセスを取っており、米国にも利点があるだろう。

継続的な警戒が必要なもう一つの分野は監督である。負担削減のため監督の改訂の要請があるだろう。監督をできる限り効果的で効率的にするには賛成であり、監督当局は最も急を要し重要なリスクに焦点を当てるべきで金融機関に不必要な負担をさせてはならない。だが、監督者がリスクに応じて迅速に強くかつ機敏に行動する能力を注意深く保持し、強化する必要がある。早期の介入で金融機関はより多くの選択肢が持てる。監督の有効性を改善しデータによる分析を活用し続けるべきだが、検査官が問題を早期に指摘する気を失わせ、効果的な監督を妨げる取組みには理事会は抵抗すべきだ。SVB の経験では、Fed は十分な検査官資源を割り当てなかったことが指摘されている。我々は十分な人的資源を配置し、検査官が必要なら迅速に強く機敏に行動できるように支援すべきである。

4. 責任あるイノベーション、サイバー・サードパーティーリスク対応

金融部門での革新的な技術の役割に関するリスクがある。イノベーションは責任をもって行われれば、消費者、金融機関及び経済に多大な利益をもたらす。暗号資産の基にあるブロックチェーン技術には金融サービスをより良く、安く、早くする可能性がある。だが、どんな新技術も新しいリスクを伴う。現状、暗号資産では投資家に構造的な防御がない。顧客資金の悪用などを避けるためには防御策の設置が重要である。

また、暗号資産の魅力的な特性はマネーロンダリングとテロ資金での利用を引き付ける。

責任あるイノベーションは全員の利益になる。我々は、技術が銀行をどう変化させるかを理解し、銀行がリスクを明確に理解、管理しつつ革新を行う能力を支援するために新規活動監督プログラムで資源を提供している。こうしたアプローチが続くことを期待したい。

海外や非国家の活動者からのサイバーリスクは銀行の主要な懸念事項になっており、規制当局はリスクの適切な管理を確実にする必要がある。また、昨年のサードパーティセキュリティ企業から波及した業務の混乱は、外部委託されたシステムの脆弱性に関する警鐘だった。IT 業界はかなり集中し、一つの IT 企業のオペレーショナルな失敗で広範な影響が生じかねない。AI の進歩は銀行が攻撃と戦う手段を提供するが、悪人にも詐欺と浸透の新しい手段を提供する。銀行と FRB はサイバーレジリエンスへの投資を続ける必要がある。

5. ノンバンク部門のリスク、気候リスク

ノンバンク部門（ヘッジファンド、プライベートクレジット、保険）は、グローバルな経済で重要な役割を果たし、新たなリスクを提起している。銀行のヘッジファンドへのエクスポージャーは増大し続け、ヘッジファンドのレバレッジは歴史的な高さにある。ヘッジファンド及び銀行とヘッジファンドの結びつきによるリスクがある。昨年の探索的なストレステストによれば、一定の市場条件で銀行は多大なエクスポージャーを持ち、特定のショックで大きく変化が生じることが分かった。

ヘッジファンドなどの米国債の現物 - 先物のベースス取引が大幅に増えているが、この取引には高水準のレバレッジが含まれる。これはポジションの急速な解消を促し、市場ストレスを悪化させかねない。証拠金慣行と参加者のリスク管理がリスクを制限するはずだが、個々の金融機関は自社の行動が市場の機能に及ぼす影響を考慮していない。こうした外部性は、規制の役割と米国債取引での清算集中義務付けが重要な一歩であることを示唆する。

プライベートクレジットも急成長し、ハイイールド債市場やレバレッジローン市場に比較し得る規模になった。伝統的なプライベートクレジットはレバレッジが制限され、長期の資金調達をしていてレバレッジ解消スパイラルへの脆弱性は少ない。だが、プライベートクレジットと銀行の結びつきが拡大し、プライベートクレジットの不透明さは残っているため、急速な成長により新たなリスクがあるかもしれない。また、リテール投資家が投信や ETF で投資できるようになったことは、消費者と金融安定にリスクをもたらしかねない。

保険業界の監視も必要であり、生命保険会社は忍耐強い投資家で長期のリスクがあるプロジェクトのファイナンスに適している。だが、生命保険会社も過度な譲歩をして負債提供者や規制当局が評価するよりも大きなリスクを取りかねない。生命保険業界はプライベートエクイティ企業が組成した資産の保有を増やしており、プライベートエクイティ企業が生命保険を買収することもある。プライベートエクイティの関連保険会社は非伝統的な負

債により多く依存している。こうした傾向には注意が必要である。

規制当局は気候変動による金融リスクに立ち向かい続ける必要がある。大きな損害をもたらす自然災害は銀行の安全性や金融安定へのリスクで、カリフォルニアの山火事は、保険市場がより頻繁で厳しい天候現象に適応する必要があるという警鐘である。山火事は損害保険市場での問題を気づかせる。保険市場の構造と規制がリスクの適切な価格付けを妨げ、市場のシグナルが高リスク分野の動向に影響する能力を制限している。民間資本が増大する自然災害リスクをカバーするのにどの程度十分なのかには疑問がある。

FRB は気候変動に関して重要だが狭い役割があり、銀行の安全と健全性、金融安定に焦点を合わせる。FRB が実施したパイロット気候シナリオ分析は、最大手銀行の能力評価と共に、分析を行う我々の能力の構築に重要なステップである。最大手銀行への指針も気候関連リスクに関して銀行に健全なリスク管理の基本原則を思い出させる重要な役割がある。

6. 結論

バー副議長は、FRB にはリスクに警戒することを含め、米国経済の強さと強靭性を維持する基本的な役割があり、強固で強靭な銀行システムは米国国民に利益をもたらすとしている。また、金融システムへのショックとシステムの脆弱性を通じてどう伝播するかを予測する能力に関しては謙虚さが必要で、だからこそ家計と企業を金融システムから発するリスクから守るためのショックの緩衝材として強い規制・監督を持つことが重要だと述べている。なお、バー副議長は講演の最後で FRB のスタッフへの深い感謝を表明している。

III. ボウマン理事の講演の概要：“Bank Regulation in 2025 and Beyond”

ボウマン理事は、銀行業界（特にコミュニティバンク）の負担軽減、監督での透明性向上を求め、（過度な）裁量への懸念を表明することが多い。この講演では、①銀行監督のテイラー化、②問題に基づく解決、③米国債市場の機能、④ストレステスト、⑤詐欺、⑥イノベーションの必須条件を取り上げている。なお、講演の初めで、銀行家は適正規模の規制と監督アプローチという改革の実現に、慎重ながら楽観的になってきていると述べている。

1. 銀行規制・監督のテイラー化 (tailoring)

規制・監督のアプローチは、健全で活気のある銀行システムを促進すべきだ。規制枠組みの“テイラー化”が重要で、これは金融機関に課す要件と期待を規模、ビジネスモデル、リスク特性と複雑さに基づいて調整する。銀行規制枠組みには多大なコスト（当局の運営コストと銀行界が規制遵守や検査などで費やすコスト）がかかり、コストは最終的には与信の利用可能性や価格、銀行サービスへの地理的なアクセスに影響する。この枠組みはより効果的に安全と健全性の責務と経済成長を促進する銀行システムのバランスをとることができるだろう。規制・監督の需要が増大すると銀行規制当局のスタッフと予算も並行して増加する。

コストを認識するだけでなく、安全と健全性を確保しつつ効率性を要請するように行動すべきだ。経済と銀行の変化や新たなリスクに応じたある程度の規制能力増加は必要だが、当局の拡大には妥当な制限があるべきだ。

監督当局が銀行業界への規制の適用をどう優先付けするかが、銀行の生存可能性に深刻な脅威をもたらしかねない。地域再投資法の新しい規則により資産 20 億ドルと資産 2 兆ドルの銀行に同一の規制要件を課すのは、より多くの効果と効率性を促す機会を逃したことを示すものだ。同様に監督上の指針は、よりテイラー化したアプローチで監督上の期待の差別化について肥沃な土壌が提供できる。当局の指針は規制当局がリスクや活動をどう考えるかの信号になるが、コミュニティバンクをしばしば不必要または不適切な資源の再配分に向かわせる。Fed のサードパーティーリスク管理の指針はその一例である。

テイラー化は全ての銀行に重要だが、コミュニティバンクには特に重要であり、銀行が過度の負担に直面すれば、コミュニティにも実際のコストが生じる。銀行が少ない金融システムが効果的に銀行と信用を供給し、経済成長を十分に支援するとは想像しがたい。銀行の規制枠組みが変化すると共に、テイラー化の利点に焦点を合わせ続けることが必要である。

2. 問題に基づく解決

規制の優先順位付けは、ビジネスを管理する銀行と責任を果たそうとする当局にとって最も難しい課題の一つである。規制当局の役割は基本的には法令で規定され、議会は FRB と他の当局に幅広い法定の権限を付与したが、権限をどう向けるかは、安全で健全な銀行システム及びより広い米国の金融安定促進を含む法定の使命の用途で制約される。

規制当局が責任を果たす最善の方法は政策決定への実際的なアプローチで、これは、監督にも適用される。FRB は監督上のポートフォリオ（銀行のグループ分け）に応じ、各ポートフォリオに対して理事会と地区連銀のスタッフを組み合わせて監督責任を果たす。監督の判断の責任には説明責任が伴う。責任と説明責任の不整合は効果的な監督を損なう。

監督プログラムには検査官のしっかりした訓練が必要で、検査官の専門性と作業での州の銀行監督者との協力を依存する。検査は各項目を確認する（box-checking）だけでなく、訓練されて経験を積み独立した判断と質問をする権限をもった検査官を頼りにしなければならず、それがより強固で効果的な監督につながる。我々は法的な優先項目を前進させるために最も重要な問題に焦点を合わせなければならない。問題の特定と優先順位を誤り、主要な問題に強い行動をしなかったり、重要性の低い問題に焦点を当てたりするリスクが常にある。我々は適切で効果的な優先付けを促進するよりよいフィルターを目標とすべきだ。

3. 米国債市場の機能

規制は金融安定リスクを作ったり悪化させたりしかねない。我々はリスクが規制による安全と健全性の利得によって正当化されるかをよく見る必要がある。米国債市場の流動性の衰えは、意図せざる結果と規制のトレードオフを評価する必要性の例である。この問題は、米国債市場の仲介での大手銀行の役割、銀行システムでの安全資産の増大、レバレッジに基づく資本要件の増加が大手銀行の一部の制約となってきたこと、などの副産物として生じた。レバレッジに基づく資本規制は銀行規制当局の責任範囲である。

米国債市場の機能は SEC の清算集中要件などで改善しそうだが、米国債の発行額と残高がどうなるかは不確実であり、Fed のバランスシートの変化も影響する。我々は米国債市場の機能を積極的に監視し続けるべきだ。大手銀行の関連会社であるプライマリーディーラーは米国債市場で重要な役割を果たしているが、銀行規制の影響を受けている。多くの要因が市場流動性に影響するが、銀行規制の副産物の検討もすべきである。FRB は以前、準備預金と米国債を補完的レバレッジ比率の分母から一時的に除外して市場ストレスに介入した。米国債市場は極めて重要な役割があり、我々は安全と健全性、金融安定を促進する枠組みを確保しつつ、銀行規制による意図せざる結果に行動を起こすべきだ。

4. ストレステスト

FRB はストレステストの検証を優先課題だと認識している。ストレステストは重要な監督手段になりうるが、その実施、結果とプロセスが多大な疑問と懸念を生じさせた。現在の構造では、ストレステストは不透明で公衆から精査されずに大手銀行の資本要件を縛る諸変数の設定に使用されている。我々の検証は、ストレステストが透明で公平か、技術的な改善の余地があるかを検討するべきである。

昨年 12 月に FRB は、透明性を改善し資本バッファのボラティリティを削減するためのストレステストプロセスの”大幅な変更”について、パブリックコメントの要請を公表した。私は、長年にわたって透明性を改善しボラティリティを削減するためのストレステスト枠組みの再考を支持しており、これを歓迎する。

5. 詐欺

詐欺、特に小切手詐欺の問題を取り上げたい。詐欺は銀行に損害を与え続け、銀行システムの安全性を損ない、消費者を傷つける。規制当局者の努力は遅く、詐欺の増加の根本的な原因にほとんど対処していない。様々な政府部門がこの問題に対処する役割を共有しているが、協調した取組みの必要性は集団的な不活動の言い訳にはならない。詐欺の防止、探知及び是正のコストは多大なものになるが、影響を受けた銀行顧客への対処もコストがかかる。銀行顧客と金融システムを守るための、より断固とした行動が遅れたままである。

6. イノベーションの必須条件

イノベーションはあらゆる規模とビジネスモデルの銀行にとって優先課題である。規制当局者は、銀行システムのイノベーションを受け入れるべきだ。我々の目標は、継続的で進化するイノベーションを予期する明確で賢明な規制枠組み（適切な防御措置を維持しつつ民間部門の革新を許容）の構築と支援であるべきだ。我々は透明で開かれたコミュニケーションを通じて、イノベーションを促進しなければならない。

より明確な規則がなければ、銀行サービスの利用可能性が減るリスクが生じる。銀行の規制方針は、銀行口座がない人々のニーズに対処し銀行サービスの利用可能性を拡大すべきであり、銀行サービスへのアクセスを制限したり排除したりするのに用いてはならない。また、与信判断は銀行規制や監督のメッセージによって指示されるべきではない。

新しい技術とサービスは、新しい規制・監督アプローチをしばしば必要とし、過去のアプローチは、将来は有効ではない。規制当局者は、規制や指針が”多いほど良い”というアプローチを取り、過去数年間、銀行業界は検討やコメントそして実施に多大な時間を必要とする規制や指針の提案や最終案の猛攻撃を受けてきた。だが、”多いほど良い”アプローチは、一般的な透明性の欠如や規制当局者はイノベーション（銀行のデジタル資産への関与や AI の利用、新しい技術と提供者の決済システムへのアクセスを含む）に過度に敵対的だという認識を含んだ批判に対応してこなかった。

私は、イノベーションへの偏見のないアプローチを弁護してきた。監督の姿勢を開発する前に新しい技術のリスクと利点の理解を優先しなければならない。規制当局者の自然な姿勢として安全と健全性を他の目的以上に強調するだろうが、そうすることは、最終的にはイノベーションを窒息させ、銀行システムの長期的な健全性と有用性を脅かすだろう。

IV. 結びに代えて

バー副議長とボウマン理事の講演を紹介したが、バーゼルⅢなど自己資本規制、大手銀行の長期債務要件、検査・監督の透明性と柔軟性、ストレステスト、技術進歩に伴うリスクの管理などで、規制・監督を巡る両者の見解の相違はかなり大きい。

バー副議長は、副議長職を離れて理事の立場で職務を続けることになる。規制・監督に及ぼす影響は予測しがたいが、バー副議長が講演で述べているストレステストの見直しがどう進められるかなどには、注意する必要があるだろう。

以上

(参考) 2022 年以降のボウマン理事の FRB 理事会での主な投票と声明をまとめると図表の通り。規制導入に異論や反対、銀行の負担軽減の必要性の指摘が多い。

参考図表：ボウマン理事が理事会決議で反対、または声明を出した議案

時期	内容	賛否	声明
2022年5月4日	CRA（地域再投資法）規制の見直しに関する規制当局合同の提案についての市中協議	賛成	市中協議には賛成だが、小規模銀行の負担増加を懸念
2022年6月30日	FRBとFDICから米国G-SIBsへの破綻処理計画へのフィードバックの期日を延期	*反対	G-SIBsは期限内に計画を提出した。当局も期日を守るべき
2022年8月15日	連邦準備銀行の口座、サービス利用の要望で求められる情報が、透明性がありリスクベースで総合的にように指針を制定	賛成	指針の制定はプロセスの透明性の第一歩で、指針の完全な適用には更なる作業が必要
2022年10月3日	デビットカード取引に関する規則の更新	反対	市中協議ではコミュニティバンクから懸念が表明されていた
2022年10月13日	大手銀行の秩序だった破綻処理のための規則制定（長期債務要件など）についての市中協議	**賛成	市中協議には賛成だが、コストベネフィットの検討が重要
2022年10月13日	USバンコープによるMUFGユニオンバンク統合の承認（破綻処理計画の改訂を誓約）	賛成	個別案件を規則改訂と結びつけるべきではない
2022年12月2日	大手銀行の気候関連金融リスクのエクスポージャーの安全、健全な管理のハイレベルな枠組みの原則についての提案に関する市中協議	***賛成	市中協議には賛成するが、最終的な原則はコスト、ベネフィットなどの検討が不可欠
2023年6月5日	諸当局の共同によるサードパーティーリスク管理についての最終指針	****反対	適切な当局の期待は支持するが、指針は小規模銀行の負担を軽減する支援措置を欠く
2023年6月23日	ヴァンテージバンクの承認	賛成	申請の処理に関するアプローチを改善すべき
2023年7月27日	大手銀行へのバーゼルⅢ最終化規則の提案についての市中協議	*反対	所用資本増加の根拠が不十分、現状でも米国の銀行は強固かつ強靱。テ일러化アプローチから逸脱
2023年8月29日	大手銀行（総資産2500億ドル超、最大級ではない）の破綻処理計画を強化するための指針の提案の市中協議	反対？	声明では当局の期待の明確化を支持、より詳細を提供すべきと指摘
2023年8月29日	大手銀行（1000億ドル超）の破綻処理計画を強化する指針（長期債務要件）の提案についての市中協議	****賛成？	声明では長期債務要件によるコスト増などを懸念、銀行の活動内容でのテ일러化もされていないと指摘
2023年9月14日	FRBが監督する保険会社（持ち株会社傘下）の所用資本規則を最終化	賛成	規則は賛成だが、規則の適用でスタッフに大幅な権限委譲をすべきでない
2023年10月22日	大手銀行の気候関連金融リスクのエクスポージャーの安全、健全な管理のハイレベルな枠組みの原則	*反対	監督上の期待が十分に明確でなく、コンプライアンスコストを増やし過大な負担が生じる
2023年10月24日	CRA（地域再投資法）規制の近代化と強化についての最終規則	****反対	最終規則は改善点もあるが、過度に複雑でコストが高く、銀行（特にコミュニティバンク）の規制負担が増える
2023年10月25日	デビットカード取引の決済手数料に上限を課す提案についての市中協議	反対	小規模業者への影響などで消費者の利益に反する意図せざる効果が生じうる
2024年1月16日	一部の大手金融機関の破綻処理計画の提出期限を延長する	賛成	延長を支持。当局が3月末までに指針を最終化できなければ再度延長すべき
2024年1月22日	規制の負担軽減に関する当局間の取組へのコメントを求める	賛成	時代遅れで不必要かつ負担が課題な規則を特定する検討の開始を支持する
2024年3月20日	CRA（地域再投資法）規制の最終化の一部の条項について適用期日を延期する	賛成	見直しを急ぎ過ぎることを懸念する
2024年5月3日	規則制定に関する2件の請願を却下する	賛成	決定を支持するが、CAMEL格付け枠組みの見直しの徹底した分析が望ましい
2024年7月17日	マネーロンダリング及びテロ資金供与対策規則の提案についての市中協議	反対	金融機関の規模、ビジネスモデル、複雑さとリスクに応じた期待の設定が望ましい
2024年7月24日	サードパーティー預金アレンジメントに伴うリスクの銀行への注意喚起とフィンテックの追加情報要請	賛成	フィンテック情報の要請は支持するが断片的な指針の公表を懸念する
2024年8月2日	大手金融機関の破綻処理計画の開発に関する指針	賛成	当初の提案からは改善して提出期限も延長された。だが、大半の資産が銀行子会社の場合など再検討すべき点もある
(参考) 2025年1月16日	NGFSからの脱退	賛成	ボウマン理事は賛成、声明なし。パー副議長とクーパー理事が棄権

*ウォラー理事も反対し声明を公表、**ウォラー理事も声明を公表（市中協議の支持は提案への賛否を意味しない）、***ウォラー理事は反対し声明を公表、****ウォラー理事は賛成したが声明を公表

〔出所〕FRBのサイトの"Board Votes" から筆者作成